

施策番号 1-1-2	施策名 公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	基本目標	誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり		
		政策名	生涯を通じて安心して暮らせる保健医療環境づくり		
	主管課 公立芽室病院	課長名	西科 純	内線	531
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
地域における一定の急性期及び慢性期患者等に対応できる1.5次の医療提供の継続に向け、公立芽室病院の診療体制を維持し、その経営基盤の強化をすすめます。		公立芽室病院	公立芽室病院の現在の診療体制の維持と経営基盤の強化				地域医療が継続され、安心して暮らせる
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 診療科数	病院決算状況	科	11	11	10	11	
② 常勤医師数	病院決算状況	人	13	14	11	16	
③ 公立芽室病院の医療体制に対して満足している町民の割合	住民意識調査	%	42.6	42.6	34.2	55.0	
成果指標設定の考え方	①診療科数 現在の科を維持する。 ②常勤医師数 内科6、外科3、整形外科2、小児科2、産婦人科1、眼科1、歯科1 ③医療体制に対する満足度 調査対象者の過半数が満足する体制を目指す						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	2,030,300	1,802,972
人工数(業務量)	6.6337	6.3674

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	歯科を廃止したことに伴い、診療科数の1減。内科常勤医師数が2名となったことや年度途中での産科の分娩停止等もあり、入院・外来数も減ったため、期待できる成果には至らなかった。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	これまで診療科の維持、それに伴う医師の確保ということが目標とされてきたが、医療環境の変化に伴い地域の医療機関としての役割が変化しており、その時流に追いついていない状況となってきた。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	病院職員任免事務 病院運営委員会開催事務 医療相談室運営事業 医療機器購入事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	医療を取り巻く環境の変化に伴い、これまでと同様の医療を提供することが困難となってきている。地域に必要な医療の取捨選択を行い、急性期病院から、地域医療に求められる慢性期・回復期に即した医療提供への変換を通して地域病院としての役割を明確していく必要がある。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果					○

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・地域医療に必要な内科医師・総合診療科医の確保が急務であるが、大変厳しい状況が続いており、今後も同様の状況が続くものと思われる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	・常勤医師の確保や診療体制の充実を望む意見等が寄せられている。 ・公立病院の状況を多くの人にわかってもらおうと「公立芽室病院をみんなで支える会」が平成23年に設立された。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

●課題① 医師招へい・定着化対策	・大学医局に属さない医師が増えてきたことで、大学からの派遣医師の割合が減り、医師の確保・定着化が年々困難になってきている。 ・医学大学のみならず、関係機関からの情報収集やHPの充実・人材派遣会社の活用等により、医師招へい対策を強化していく必要がある。
●課題② 経営(収支)安定化	・平成30年度は繰入金も多く赤字ではあるが、収支は回復基調となってきた。令和元年度にはコンサルを導入し、医業収益の改善・向上に向けた取り組みを強化し、医業収益の向上・医業費用の削減を行っていく。
●課題③ 地域包括医療ケアの実践	・訪問診療や訪問看護・看取りなど、在宅医療のニーズが高まっている。内科医や総合診療科医を確保し、ニーズに応えられる診療体制の確保が必要である。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	策定時とは施策方針の転換があり、診療科を減らしたりといった方向性が変わったため、成果指標が下がってしまった。		A	B	C	D	E
進捗結果							○
今後の取組に対する意見	今年度のコンサルの状況のみをみて、今後経営安定化に向けて進めてほしい。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した				
		C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した					
		D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない					
		E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	医療を取り巻く環境の変化などは理解するが、成果指標を考えると策定時と比較して後退したと評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果							○
今後の取組に対する意見	・夜間救急など町民が安心して暮らせる体制は継続してほしい。 ・病院の現状やさまざまな取組を町民に周知する機会が必要ではないか。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した				
		C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した					
		D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない					
		E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					